

蒲生海岸の砂浜の堆積について

■蒲生海岸の砂浜の堆積物について

蒲生海岸の砂の堆積状況を確認した (Fig.1)。調査地点1を1.0m程度掘ったところ (Fig.2)、堆積層 (砂質) の変化は見られなかった。津波により一度なくなった砂が、自然に堆積をしている様子が分かる。調査地点2では、0.6m程度掘り下げると、水がしみ出してきた (Fig.3)。その下には、それまで掘ってきた砂とは、明らかに異なる砂層が出てきた (Fig.4)。この砂層には、植物の根や人工物 (ビニル袋のようなもの) が含まれることから、津波前の干潟の地表面であると考えられる。拡大してみると砂浜の砂と干潟の地表面と考えられる砂とは、粒子の大きさが異なることが分かった (Fig.5)。



Fig.1 調査地点 (津波以前の地形)



Fig.2 調査地点1のようす
 砂層に変化は見られない。
 葉理を見ることができる。



Fig.3 調査地点2のようす
 満潮時には水面近くになるため、水が出やすい。

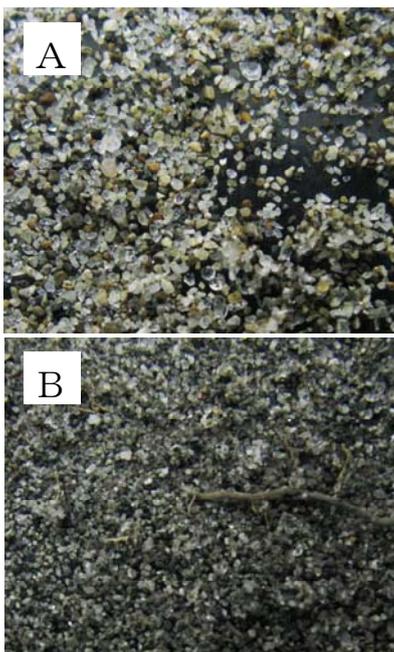


Fig.4 調査地点2の砂
 A：地上～0.6m
 B：0.6mより下部

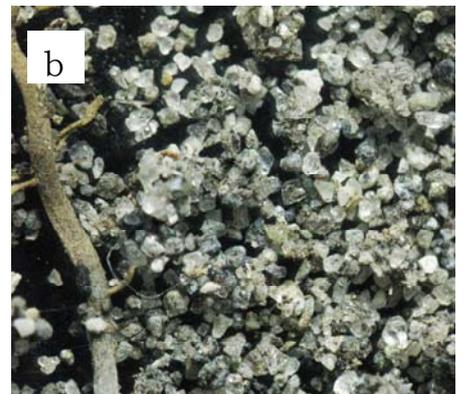
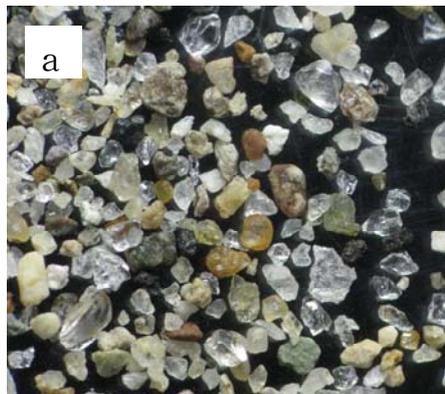


Fig.5 Fig.4の拡大 (15倍)
 a・bの粒子の大きさの違いが分かる。また、bには、根や粒子の小さい泥のようなものも、aに比べ多く含まれる。